

ポリオ後遺症 学びませんか

東京都 小山 万里子

(会社員46歳)

一緒にポリオの治療をうけていたあなたは、その後いかがお過ごしでしょうか。何十年もたちました。

日本では、一九六二年以降ポリオの発生はほぼ根絶されました。ところがまひから回復して三十年後、四十年後、罹患(りかん)した肢、それ以外の肢にも筋萎縮や疼痛(とうつう)などの症状が起(おこ)る例があります。「ポリオ後遺発性進行性筋萎縮症(PPPMA)」と呼ばれる病態ですが、一般に知られていないため、具合が悪くとも、ポリオで不自由なため、などと思っ

てでしょうか。私も、ひよつとしてと思いながら気にしすぎかと数年ためらった末、受診し、治療をうけています。

PPMAの患者同士、リハビリの仕方や症状を悪化させないための情報を交換しませんか。なぜ、どうしてPPMAがおこるのか、勉強会を開いてみませんか。患者数が少なく、将来日本では消滅するはずの病気のためか、研究への国の援助も少ないようです。しかし、世界では今日もポリオは流行しており、新たなPPMA患者の増加も予想されます。その人々のためにも、私たち患者のためにも、少しでも有効な治療法が一日も早く見つかるよう、医学研究に協力したいと思いません。